

平成17年度

事業報告書

財団法人 東京都農林水産振興財団

目 次

平成17年度事業報告の概要	1
1 後継者等対策事業	3
(1) 新規就業者支援事業	3
(2) 経営活動促進事業	6
(3) 都民交流事業	7
(4) 林業労働力確保支援センター事業	9
2 経営安定対策事業	14
(1) 野菜価格安定対策事業	15
(2) 農地保有合理化事業	15
(3) 畜産振興事業	16
3 農林水産資源拡大事業	18
(1) 青梅畜産センター事業	18
(2) 栽培漁業センター事業	19
(3) 奥多摩さかな養殖センター事業	21
4 森林整備事業	23
(1) 分収林事業	23
(2) 都民との協働による森林づくり事業	25
(3) 都行造林事業	29
(4) 花粉発生源対策事業	30
5 緑の募金・緑化推進事業	31
(1) 緑の募金事業	31
(2) 苗木生産供給事業	34
6 環境保全型農業の推進事業	36
(1) 堆肥生産供給事業	36
(2) 東村山キャンパス生ごみリサイクル事業	36
7 農林総合研究センター事業	37
(1) 試験研究事業	37
(2) 受託研究事業	41
8 情報提供・普及啓発事業	42
(1) 森林総合利用事業	42
(2) LCA調査事業	44
(3) 総合情報提供事業	45
(4) 緑のシンポジウム事業	46

平成 17 年度事業報告の概要

平成 3 年に「(財)東京都農林水産後継者育成財団」と「(社)東京都野菜価格安定資金協会」が統合して設立された当財団は、平成 10 年には「(財)東京都森林整備公社」を統合し、その後も業務を拡大してきた。平成 17 年度からは、東京都による農業試験場、畜産試験場、林業試験場の統合と試験研究等の当財団への委託により、東京の農林水産業振興において、さらに重要な役割を担うこととなった。こうした変化に適切に対応するため、当財団では寄附行為を変更して事業を再編するとともに、厳しい東京の農林水産業の状況に的確に対応するため、農林水産業の現場と都民生活への貢献を視点として財団事業の見直しを行った。

平成 17 年度は、これらの対応を踏まえて、東京の農林水産業の発展に向けて、試験研究機関の統合化のメリットを発揮し、柔軟かつ機動的に事業展開を行った。

1 後継者等対策事業

- (1) 平成 16 年度に関係団体等の協力を得て事業のあり方を検討した結果を踏まえ、青年等就農促進、東京の青空塾、林業労働力確保支援センターの各事業も新たに加えて、新規就業者支援事業、経営活動促進事業、都民交流事業、林業労働力確保支援センター事業を実施した。
- (2) ニーズに対応した事業内容とするため、自主研究活動に対してより重点課題に取り組めるよう、「戦略的課題研究支援」を行うとともに、都民の農林水産業に対する理解促進と農林水産業者との交流を強化する「生産者と都民との交流」を行った。
- (3) 円滑な就農を推進するため就農に必要な準備資金を無利子で貸し付ける就農支援資金事業を実施した。
- (4) 東京の青空塾では、援農ボランティアを 2 地区で養成するとともに、ボランティア受入農家の実態調査を実施するなど新しい農業の担い手育成を強化した。
- (5) 林業労働力確保支援センターにおいては、国からの委託を受けて林業への就業希望者を研修する「林業就業支援」を実施した。

2 経営安定対策事業

- (1) 法律などに基づく野菜価格安定対策事業、畜産振興事業は、農家の安定的経営に不可欠な事業であり、着実かつ迅速な事業執行を行った。
- (2) 農地保有合理化事業では、島しょ地域を中心に不耕作地解消に取り組んでおり、現地推進会議や担当者会議を開催し、関係機関と密接な連携を図った。八丈町において賃借事業を 407 アール実施した。

3 農林水産資源拡大事業

- (1) 新たに都からの受託事業として「青梅畜産センター事業」を実施して「トウキョウ X」、「東京しゃも」、「東京うこっけい」等の種畜を生産・配付、農家への技術指導を行い、東京の畜産業の振興に貢献した。
- (2) 栽培漁業センターにおいてアワビ、トコブシ、サザエの種苗生産・配付を実施して島しょ地域の磯根資源の維持増大に貢献した。
- (3) 奥多摩さかな養殖センターにおいてニジマス、ヤマメ、イワナ、奥多摩やまめの種苗の生産・配付を実施することで、内水面の資源維持と地域産業の活性化に

貢献した。また、奥多摩やまめの生産拡大に向けて稚魚の試験配付を行った。

4 森林整備事業

- (1) 森林所有者の理解を得て、20ヘクタールの二者分収育林契約を締結するとともに、搬出条件が良い間伐事業においては材を搬出・販売した。
- (2) 都民との協働による森林づくり事業における「奥多摩・武蔵野の森」、「奥多摩共生の森」等において、東京都の17年度重点事業の「シカ被害地造林対策」と連携して事業を実施した。

5 緑の募金・緑化推進事業

- (1) 緑の募金では4,592万円を集め、ボランティア団体・自治会・区市町村等に助成金を交付し、森林整備や都市緑化を推進した。また、ポスター等による広報活動や各種イベントに参加するなど、緑の募金活動の推進を図った。
- (2) 苗木生産供給事業では、都の計画に基づき緑化用苗木約12万8千本を購入し、公共事業・施設向けに苗木供給を行い、緑化を推進した。

6 環境保全型農業の推進事業

- (1) 東京都有機農業堆肥センターにおいて662トンの優良堆肥を生産し、有機農法の実践農家に対して供給（有償）を行った。
- (2) 新たに都施設の東村山キャンパス（老人ホーム等）内で発生する生ごみを処理して堆肥化するとともに、老人ホーム入居者に対して野菜づくりの指導等を行った。

7 農林総合研究センター事業

- (1) 新たに「農林総合研究センター事業」を都から受託して、農林業の振興を図るため調査・試験・研究を行うとともに、農林業者や都民に対する技術支援や情報提供を行った。
- (2) 外部から研究資金を積極的に導入し、受託研究、企業等との共同研究に取り組み、都民に役立つ研究を実施した。

8 情報提供・普及啓発事業

- (1) 森林を活用して、都民が自然に親しみ、交流を深めることにより都民参加の森林づくりを推進した。
- (2) LCA（ライフサイクルアセスメント）調査は、引続き東京産木材による住宅と一般的な住宅の建設に伴う環境負荷量の比較を行い、調査結果のとりまとめを行なった。
- (3) 「東京農業WEBサイト運営事業」、「東京森と木WEBサイト運営事業」を受託して、財団ホームページと連携して総合的に情報を発信することにより、都民の農林水産業に対する理解を促進し、東京の農林水産業の振興を図った。
- (4) 東京の緑問題に関する認識の共有化を目的とし、都内の市区町村が共同で開催した「東京の緑問題を考えるシンポジウム」の企画・運営業務を行った。

1 後継者等対策事業

将来の農林水産業を担う後継者等に対し、資金の貸付や各種研修への参加、自主研究活動等の奨励、配偶者確保の支援などを行った。

また、新しい事業展開や経営の高度化を目指す農林水産事業者に対する技術習得の支援などを行うことによって、活力ある東京都の農林水産業振興の推進に努めた。

(1) 新規就業者支援事業

① 青年等就農促進

東京都から指定を受けた「青年農業者等育成センター」として、青年農業者の円滑な就農を支援した。

ア 就農相談

相談員(2名)が就農相談に対応し、新規就農者の支援を行った。

就農相談件数 75件(本所24件 分室28件 相談会28件)

イ 就農支援資金貸付

新規就農者及び就農希望者を雇用・育成していこうとする農業法人等に対して、就農に必要な資金を無利子で貸し付けた。

【平成17年度就農支援資金貸付実績額】

種 類	内 容	計 画	貸付実績
研修資金	農業大学校等 @ 50,000/月	5件6,000千円	1件600千円
	先進農家等 @ 150,000/月		
	農業改良普及センター 等による指導研修 (200万円以内)		
就農準備資金	就農に必要な資金 (200万円以内)	3件4,200千円	1件2,000千円
就農施設等資金	機械購入、施設の設置 (2,800万円以内)	3件26,800千円	3件17,551千円
合 計		11件37,000千円	5件20,151千円

(貸付決定された研修資金の内、300千円は18年度分執行分)

ウ 青年農業者等育成

東京都農林水産業技術交換大会の開催、全国農業青年交換大会等への派遣など青年農業者の啓発、研究、交流活動を支援した。

名 称	内 容
東京都農林水産業技術交換大会	日 時：平成１７年６月２３日 場 所：女性総合センター・アイム 参加者：１２６名
全国農業青年交換大会	日 時：平成１７年８月２４日～２６日 場 所：愛知県名古屋市外 都出席者：１０名
全国青年農業者会議	日 時：平成１８年３月１日～３日 場 所：独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター 都出席者：２名



就農希望者との相談会



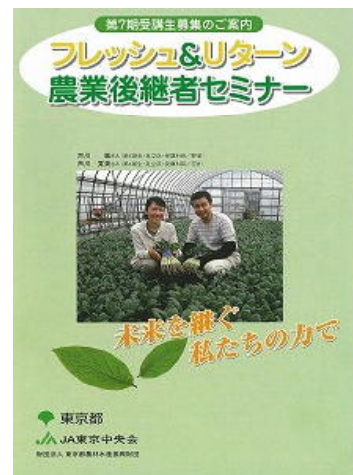
全国青年農業者大会で発表（愛知県名古屋市）

② 研修等支援

項 目	計画	実績	実 施 内 容
公立機関等 研修	受講生 8 名	7 名	○公立機関等での研修に対する助成 ①研修先：農林総合研究センター ②期 間：1 年間 ③内 容：野菜（7 名）
フレッシュ&Uターン 農業後継者セミ ナーの運営支援	受講生 100 名	138 名	○平成 1 7 年度フレッシュ&Uターン農業後継者セミナーへの協賛と助成 ①主 催：東京都、東京都農業協同組合中央会 ②期 間：平成 1 6 年 5 月～平成 1 8 年 3 月（2 ヶ年）
ふれあい交流 会の開催	—	1 回	○「お楽しみ収穫体験と手づくりバーベキュー」の開催 ①日 時：1 0 月 1 6 日（日） ②場 所：東村山市他 ③参加者：女性 2 1 名（申込 7 2 名）、男性 1 5 名 ④内 容：野菜の収穫体験と採れたて野菜を使った鍋を囲んでの会食
地域ふれあい 交流会への 助成	対象 2 団体	4 団体	○後継者組織が行うふれあい交流会に対し助成 ① J A 東京みどり青壮年部（参加者 4 8 名） ② J A マインズ青壮年部（参加者 4 0 名） ③立川市農研会「ふれあい部会」（参加者 3 7 名） ④ J A 東京みらい青壮年部（参加者 3 2 名）
新規就業者の 調査・登録	1 回 5 0 名	1 回 4 7 名	○新規就業者の就業状況について調査を行い、登録を行った。



ふれあい活動で独身女性と農作業体験



F&U 募集パンフレット

(2) 経営活動促進事業

① 自主活動支援

区 分	活動組織数		主 な 研 究 テ ー マ
	計画	実績	
自主研究活動支援	25	12	○農薬散布軽減型ハウスにおけるハウレンソウの安定生産の確立（きよせ施設園芸研究） ほか
戦略的課題研究支援		3	○獣害対策と地域振興策を結びつけた新たな取り組み（ぼんぼり柚子生産組合） ほか
課題別専門研修		12	○日野市女性農業者農産物加工実習講習会（みちくさ会） ほか
合 計	25	27	

② 研修活動支援

項 目	計画	実績	実 施 内 容
視察研修助成	25 組織	26 組織	○登録後継者組織が行う視察研修経費一部助成
海外短期研修	開催 1回	開催 1回	○フランス農業を学ぶ ①日 時：10月8日（土）～10月15日（土） ②場 所：リヨン、パリ ③参加者：12名
情報提供	随時	随時	○財団ホームページ内に掲載している後継者事業の情報の発信



海外短期研修はフランスで実施

(3) 都民交流事業

項 目	計 画	実 績	実 施 内 容
生産者と都民との交流	開催 1回	開催 1回	○地産地消を考える交流会 ① 日 時：2月22日（水） ② 場 所：立川市市民会館小ホール他 ③ 参加者：204名 ④ 地産地消弁当の試食
生産現場における消費者との交流	開催 1回	開催 1回	○東京とれたて野菜収穫体験ツアー ① 日 時：7月10日（日） ② 場 所：東久留米・西東京市内 ③ 参加者：33名
東京の 青空塾	25名 130名 157名 173名	23名 113名 144名 173名	○援農ボランティア養成 地区 2地区 ○援農ボランティアの認定 ○地域推進組織支援 ボランティア保険加入手続き ○アンケート調査



消費者をイチゴ畑に案内



東京の青空塾パンフレット

項 目	計 画	実 績	実 施 内 容
畜産ふれあい体験事業	開催 1回	開催 2回	○「地域交流牧場協議会」の設置及び運営 (1回目) ①日 時：12月15日(木) ②場 所：財団青梅庁舎 ③参加者：14名 (2回目) ①日 時：3月16日(木) ②場 所：財団青梅庁舎 ③参加者：19名
	開催 1回	開催 1回	○「畜産ふれあい体験交流会」の開催 ①日 時：3月29日(水) ②場 所：八王子市・磯沼ミルクファーム ③参加者：21名
	開催 1回	開催 2回	○「畜産料理体験教室」の開催 (1回目) 主要素材「東京しゃも」 ①日 時：2月13日(月) ②場 所：立川市女性総合センターアイム ③参加者：30名 (2回目) 主要素材「TOKYO-X」 ①日 時：3月16日(木) ②場 所：財団青梅庁舎 ③参加者：38名



幼稚園児が乳牛とふれあい体験



東京しゃもなど地元の素材を使った料理教室

(4) 林業労働力確保支援センター事業

「東京都林業労働力確保支援センター」として、新規の就業や林業従事者の育成など林業労働力確保のための支援事業を実施した。

① 森林整備担い手確保対策（林野庁補助事業）

区 分		計画	実績	実 施 内 容
林合 業理 事化 業支 体援 経事 営業	林業就労安定指導員による事業体経営指導活動	1 名	1 名	○指導員活動日数：延べ12日 ○活動地域等：多摩川・秋川・浅川流域の林業事業体
基 幹 林 業 就 業 者 等 養 成 事 業	技術研修会の開催	4 回	4 回	①開催日：平成17年 9月 3日～ 8日 平成17年11月 5日～10日 平成18年 1月14日～19日 内 容：車両系建設機械技能講習 開催場所：コマツ教習所(株)東京センタ 参加者数：3 名 ②開催日：平成17年8月3～5日 内 容：小型移動式クレーン 開催場所：コマツ教習所(株)東京センタ 参加者数：2 名



車両系建設機械技能講習



小型移動式クレーン技能講習

② 地域林業雇用改善促進

区 分	計画	実績	実 施 内 容
ア相談指導事業	1 人	1 人	林業雇用改善アドバイザーを委嘱し、都内の林業事業体に対し、林業雇用労働の実態の把握と就業規則等の整備による労働環境の改善についての巡回指導、相談及び求人求職相談を実施した。 ・事業体等の個別巡回指導実績 9 回 ・求職相談実績 87 人 相談方法 電話 80 件、メール 2 件、来訪 5 件
イ雇用情報収集・提供	2 回	2 回	雇用情報誌「林業労働力雇用情報」第17・18号を発行し、求人・求職者に情報提供を行った ○雇用情報誌の配布先 ・47都道府県労働支援センター ・国、都。市町村（林業・労働関係機関） ・森林組合及び林業関係団体
ウ研修事業等	1 回	1 回	①林業雇用経営改善セミナーの開催 実施日：平成17年7月28日 会 場：多摩木材センター会議室 講 師：全国森林組合連合会 組織部担い手グループ長 志 村 一 男 テーマ：「林業の現状と木材利用及び林業事業体の活性化」 参加者：40名



林業雇用経営改善セミナーの開催

③ 林業就業促進資金貸付

区 分	種 類	貸付件数	貸付金額	備 考
林業就業促進資金貸付	就業研修資金	0	0	
	就業準備資金	0	0	H16 1件

④ 宿舍借り上げ助成

区 分	計画	実績	実 施 規 模	備 考
新規就労者宿舍借上助成	5棟	5棟	東京都森林組合 5棟	助成期間：3年

⑤ 緑の雇用担い手育成

区 分	計画	実績	実 施 規 模	実 施 期 間
緑の雇用担い手育成研修 基礎研修 (9日) ◎ 研修場所 ○森林組合 研修室 ○奥多摩町地内 公有林	20日	20日	1 森林林業の基礎知識 2 安全衛生管理全般 3 測量・測樹実技 4 森林保育管理 5 間伐・密度管理 6 間伐	6/8 6/9・10 7/14・15 11/16～18 9/8 1/20
専門研修 (11日) 受 講 者：5名 ◎ 研修場所：コマツ 教習所(株) 東京センタ			1 小型移動式クレーン 2 玉掛け 3 車両系建設機械	8/3・4・5 10/3・4 9/3～8
本格就労(森林組合)	5名	5名		



刈払機実習



「緑の担い手育成研修」(第3期生)

⑥ 林業就業支援

区 分	計画	実績	実 施 規 模	実 施 期 間
林業就業支援講習 年 2 回（春期・秋期） 1 8 日 × 2 回 = 3 6 日 受講者 第 1 回 目 5 名 第 2 回 目 6 名	3 6 日	3 6 日	1. 林業と山村地域の現状 2. 森林と林業の知識 3. 林業労働安全教育 4. 刈払機作業講習 5. チェンソー作業講習 6. 現地講習 7. グループ討議 8. 施設見学 9. 実地講習 10. 就業・生活相談	（1 回 目） 平成 1 7 年 4 / 1 4 ~ 5 / 1 8 平成 1 7 年 （2 回 目） 1 0 / 1 7 ~ 1 1 / 1 0

○研修場所

- ・ 東京都森林組合
- ・ 多摩木材センター協同組合
- ・ 奥森ハウス
- ・ 現地講習（青梅市成木山林）

○林業機械講習実施機関

- ・ 林材防 東京都支部
（チェンソー・刈払機）



労働安全講義（林業機械の取扱い及び構造）

⑦ 林業労働力就労安定助成

安定した林業労働力を確保するため、各種就労対策の助成を実施した。

また、森林を活用して、都民が自然に親しみ、都市と山村の交流を深めることにより、都民参加の森林づくりを推進するための各種事業を企画し、実施した。

林業労働力の安定、活性化事業

(単位：千円)

区 分		加 入 人 員 (人)				助 成 状 況	
		都 森 連	都 森 組	三 宅	計	団体実施 事業費	財団助成額 (助成率)
福 利 共 済 制 度 加 入 助 成	労働災害補償	0	103	0	103	1,016	508 (1/2 以内)
	団体定期 傷害補償	2	110	0	112	3,386	1,693 (1/2 以内)
	共済年金	2	44	0	46	1,104	552 (1/2 以内)
	林業退職金 共済	0	0	0	0	0	0 (1/2 以内)
	事務費助成	—	—	—	—	500	500 (10/10)
	合 計	4	257	0	261	6,006	3,253

2 経営安定対策事業

(1) 野菜価格安定対策事業

平成17年度は、比較的台風等の気象災害が少なく、気温は平年並みに推移し天候も安定していたため、農産物の生育は良好であったことから、野菜の価格はいずれの品目も年間を通して低迷した。

このため、補給交付金は昨年度の3倍以上となる約7,460万円となった。

〔平成17年度実績〕

(単位：t、千円)

項 目	計 画	実 績	前年度実績	備 考
出荷数量	8,204	5,228	4,794	
資金造成総額	166,932	166,932	253,452	
補給金交付額	—	74,596	21,271	

〔野 菜 別 内 訳〕

野 菜 名	出荷計画(t)	出荷実績(t)	補給金交付額 (千円)	備 考
こまつな ※	30	28	63	
カリフラワー	136	44	0	
ブロッコリー	71	17	261	
ほうれんそう※	26	9	343	
キ ャ ベ ツ	6,714	4,425	68,680	
秋冬だいこん	488	206	2,749	
冬にんじん ※	739	499	2,500	
合 計	8,204	5,228	74,596	

(注) ※①計画、実績ともに平成17年1月から12月までの数値である。



市場へ出荷される新鮮な東京産野菜

(2) 農地保有合理化事業

都内遊休農地の流動化を積極的に推進するため、平成17年度は、現地推進会議や担当者会議を開催し、関係機関との密接な連携を図ったことにより、八丈町において貸借事業を407a実施した。

また、農地流動化奨励金は、利用権設定により農地を貸し付けた所有者に支払う奨励金であり、平成17年度は、八丈町で4.0ha、1,219千円を交付した。

事業実績

区 分	17年度計画		17年度実績	
	件 数	面 積	件 数	面 積
(1) 売 買 事 業	9 件	630 a	0 件	—
(2) 貸 借 事 業	1 件	410 a	1 件	407 a
計	10 件	1,040 a	1 件	407 a
(3) 奨 励 金 交 付	— 件	7.0 ha	1 件	4.0 ha
(内 訳)				
実 績	地 区	八丈町	計	
	件 数	1 件	1 件	
	面 積	4.0 ha	4.0 ha	



遊休農地から流動化され耕作農地へ



八丈島の基幹産業の観葉植物

(3) 畜産振興事業

牛肉の自由化が肉用子牛の価格等に及ぼす影響に対処するため、肉用子牛の四半期平均売買価格が下落し、国が定めた保証基準価格を下回った場合に補給金を生産者に交付し、肉用子牛生産の安定を図った。また、肥育牛1頭当たりの四半期平均推定所得が基準家族労働費を下回った場合に生産者に補てん金を交付するのに備えて基金を造成し、肉用牛肥育農家の経営の安定を図った。

事業名	内 容																																																				
(1)肉用子牛価格安定対策事業	①肉用子牛生産者補給金交付																																																				
	肉用子牛の品種ごとに生産者 1/4、都 1/4、(独) 農畜産業振興機構 1/2 の割合で生産者積立金（基金）の造成を行なった。																																																				
	（独）農畜産業振興機構が品種・四半期ごとに算定した肉用子牛の平均売買価格が、国の定めた保証基準価格を下回ったため生産者に補給金を交付した。																																																				
	・生産者積立金の造成（生産者 1/4、都 1/4、機構 1/2）																																																				
	(単位：円／頭)																																																				
	<table><tr><th rowspan="2">区分</th><th rowspan="2">頭数</th><th rowspan="2">単価</th><th rowspan="2">積立 金額</th><th colspan="3">負 担 金 額</th></tr><tr><th>機 構</th><th>東京都</th><th>生産者</th></tr><tr><td>黒毛和種</td><td>75 頭</td><td>9,900</td><td>742,500</td><td>371,250</td><td>185,625</td><td>185,625</td></tr><tr><td>交雑(4 ～6 月)</td><td>23 頭</td><td>6,200</td><td>142,600</td><td>71,300</td><td>35,650</td><td>35,650</td></tr><tr><td>交雑(7 ～12 月)</td><td>7 頭</td><td>5,000</td><td>35,000</td><td>17,500</td><td>8,750</td><td>8,750</td></tr><tr><td>交雑計</td><td>30 頭</td><td>—</td><td>177,600</td><td>88,800</td><td>44,400</td><td>44,400</td></tr><tr><td>乳用種</td><td>3 頭</td><td>12,700</td><td>38,100</td><td>19,050</td><td>9,525</td><td>9,525</td></tr><tr><td>合 計</td><td>108 頭</td><td>—</td><td>958,200</td><td>479,100</td><td>239,550</td><td>239,550</td></tr></table>	区分	頭数	単価	積立 金額	負 担 金 額			機 構	東京都	生産者	黒毛和種	75 頭	9,900	742,500	371,250	185,625	185,625	交雑(4 ～6 月)	23 頭	6,200	142,600	71,300	35,650	35,650	交雑(7 ～12 月)	7 頭	5,000	35,000	17,500	8,750	8,750	交雑計	30 頭	—	177,600	88,800	44,400	44,400	乳用種	3 頭	12,700	38,100	19,050	9,525	9,525	合 計	108 頭	—	958,200	479,100	239,550	239,550
	区分					頭数	単価	積立 金額	負 担 金 額																																												
		機 構	東京都	生産者																																																	
	黒毛和種	75 頭	9,900	742,500	371,250	185,625	185,625																																														
	交雑(4 ～6 月)	23 頭	6,200	142,600	71,300	35,650	35,650																																														
交雑(7 ～12 月)	7 頭	5,000	35,000	17,500	8,750	8,750																																															
交雑計	30 頭	—	177,600	88,800	44,400	44,400																																															
乳用種	3 頭	12,700	38,100	19,050	9,525	9,525																																															
合 計	108 頭	—	958,200	479,100	239,550	239,550																																															
(平成 1 7 年 1 月から 1 2 月個体登録牛に係る積立金)																																																					
・保証基準価格等																																																					
(単位：円)																																																					
<table><tr><th>区 分</th><th>保証基準価格</th><th>合理化目標価格</th></tr><tr><td>黒毛和種</td><td>304,000</td><td>67,000</td></tr><tr><td>交 雑 種</td><td>175,000</td><td>135,000</td></tr><tr><td>乳 用 種</td><td>110,000</td><td>80,000</td></tr></table>	区 分	保証基準価格	合理化目標価格	黒毛和種	304,000	67,000	交 雑 種	175,000	135,000	乳 用 種	110,000	80,000																																									
区 分	保証基準価格	合理化目標価格																																																			
黒毛和種	304,000	67,000																																																			
交 雑 種	175,000	135,000																																																			
乳 用 種	110,000	80,000																																																			
(平成 1 8 年 3 月末日現在)																																																					
・保証基準価格－合理化目標価格＝独立行政法人農畜産業振興機構が全額交付																																																					
・合理化目標価格を下回った場合は、生産者積立金を取崩し、差額の 9/10 を交付																																																					

3 農林水産資源拡大事業

種畜、種苗などの農林水産資源を生産・配付して、農林水産業振興に資するために以下の事業を実施した。

(1) 青梅畜産センター事業

東京都との委託契約に基づき、安全で高品質な肉や卵を都民に供給するため「トウキョウX」、「東京しゃも」、「東京うこっけい」等の種畜の生産・配付を行った。また、種畜等の維持改良を行い、効率的、計画的に供給し、農家への技術指導等を行った。

種畜生産・配付実績

平成17年度種畜配付規模

種畜の種類		計 画	実 績
トウキョウX (雄)	種豚	40 頭	17 頭
〃 (雌)	〃	70 頭	70 頭
東京しゃも		20,100 羽	20,643 羽
軍鶏交雑種		80 羽	230 羽
ロードアイランドレッド		1,000 羽	1,892 羽
東京うこっけい		10,000 羽	10,976 羽
受託孵化	種卵	20,000 個	10,497 個

上記に関わる飼育・技術指導・安全衛生管理を行った。



トウキョウX豚



東京しゃも



東京うこっけい

(2) 栽培漁業センター事業

アワビ・フクトコブシ・サザエ種苗の生産・配付等を東京都から受託し実施した。

①種苗生産

		計 画	実 績	実 施 内 容
種 苗 配 付	アワビ フクトコブシ サザエ	15万個 80万個 55万個	15万個 80万個 55万個	島しょの4漁協1村へ配付 島しょの5漁協2村へ配付 島しょの4漁協1村へ配付
	合 計	150万個	150万個	

		計 画	実 績	実 施 内 容
種 苗 生 産	アワビ フクトコブシ サザエ	15万個 80万個 55万個	15万個 80万個 55万個	平成18年度配付用種苗の採卵・ 飼育を実施した。
	合 計	150万個	150万個	



飼 育 管 理 (サザエ種苗の水槽分散作業)

② 試験研究

・ 小型種苗の早期配合飼料転換試験

環境適応力が強く、耐病性のある種苗を生産するため、適正給餌方法を検討した。

④ 災害対策種苗生産

		計 画	実 績	実 施 内 容
種 苗 配 付	フクトコブシ サザエ	20万個 20万個	20万個 20万個	三宅島へ配付 三宅島へ配付
	合 計	40万個	40万個	

		計 画	実 績	実 施 内 容
種 苗 生 産	フクトコブシ サザエ	20万個分 20万個分	20万個分 20万個分	平成18年度配付用種苗の 採卵・飼育を実施した
	合 計	40万個分	40万個分	

(3) 奥多摩さかな養殖センター事業

東京都の委託契約に基づき冷水性魚類の種苗を生産して、河川漁協・養殖漁協に配付を行い、内水面の資源を維持するとともに、内水面漁業者の経営の安定化及び地域産業の活性化に寄与した。また、生産種苗の質の維持向上及び魚病対策を行った。

① 種苗生産

ア ニジマス、ヤマメ、イワナ、奥多摩やまめを生産し配付した。

イ 奥多摩やまめの生産拡大のため稚魚の試験配付を行った。

魚種	サイズ	計画	実績	実施内容
ニジマス	稚魚 ・春稚魚 ・秋稚魚 発眼卵	30万尾 10万尾 20万尾 21万粒	23万8千尾 3千尾 23万5千尾 23万5千粒	養殖漁協及へ配付 養殖漁協及び2河川漁協へ配付 養殖漁協及へ配付
ヤマメ	稚魚 ・春稚魚 ・秋稚魚 発眼卵	24万5千尾 20万尾 4万5千尾 100万粒	29万8千尾 21万3千尾 7万3千尾 123万粒	養殖漁協及び3河川漁協へ配付 養殖漁協及び3河川漁協へ配付 養殖漁協及び4河川漁協へ配付
イワナ	発眼卵	10万1千粒	3万5千粒	養殖漁協へ配付
奥多摩やまめ	発眼卵 稚魚	9万粒 -	5万粒 2万2千尾	養殖漁協へ配付 養殖漁協及び1河川漁協へ試験配布



飼育管理（ヤマメ稚魚の計量と池替え）

ウ 上記に関わる飼育・魚病の技術指導を行った。

② 試験研究

種苗生産事業に関して、下記の試験・研究を実施した。

○冷水魚優良種苗育成試験

- ・ヤマメ斑紋の遺伝的劣化を防止するため、斑紋の優良な親魚を選抜採卵した。
- ・生産した奥多摩やまめ発眼卵について倍数性を判定した。
- ・奥多摩やまめ稚魚の試験配布を行い飼育経過を調査した。
- ・IHN 抗病系選抜魚の親魚養成を行った。

○魚病診断及び疾病別対策研究

- ・管内養殖業者の魚病診断を実施した。

○IHN 抗病性品種の作出試験

- ・2 g 及び8 g のサイズの魚に対して IHN ウイルスによる攻撃試験を行い、抗病性の高い系統を選抜した。

4 森林整備事業

(1) 分収林事業

長期の木材価格の低迷により、分収林事業の採算性は極度に悪化している。このため、分収造林事業は、平成11年度から新規契約を休止している。分収育林事業については、林道から近くヒノキの割合が高い、採算が確保できる森林を対象に新規契約を実施した。

また、搬出条件の良好な既契約地において利用間伐を行い、間伐木の販売を実施した。

① 二者分収造林

契約地の保育管理実績

市町村	巡視 (ha)
奥多摩町	0.60
青梅市	6.52
桧原村	6.26
計	13.38

※ 森林整備地域活動支援事業により実施

② 二者分収育林

ア 契約地の保育管理実績

(単位は面積：ha、経費：千円)

市町村	既契約地(元～16年度)				17年度契約地			
	除伐		枝打		除伐		枝打	
	面積	経費	面積	経費	面積	経費	面積	経費
奥多摩町	10.69	4,419	6.59	5,250	1.42	538		
青梅市	8.09	2,705			6.86	4,042		
日の出町								
あきる野市	1.96	648						
桧原村	8.43	3,256						
八王子市								
計	29.17	11,028	6.59	5,250	8.28	4,580		

イ 契約地の管理実績

(単位は面積：ha、経費：千円)

市町村	既契約地		17年度契約地					
	巡視		作業路		調査測量		表示板等	
	面積	経費	延長	経費	面積	経費	面積	経費
奥多摩町	170.64	454	200	350	5.72	466	5.72	57
青梅市	18.15	48	700	1,223	9.94	811	9.94	81
日の出町	1.89	5						
あきる野市	13.58	36			4.35	355	4.35	49
桧原村	82.51	219						
八王子市	15.22	40						
計	301.99	802	900	1,573	20.01	1,632	20.01	187



保育管理が行われている分収林

ウ 平成17年度新規契約状況

(単位は面積：ha、経費：千円)

市町村	箇所数	契約者	面積	除地	施業	樹種	支払対価	森林保険
奥多摩町	1	1	5.72	4.30	1.42	ヒノキ	461	144
青梅市	1	1	9.94	1.94	8.00	スギ ヒノキ	2,553	848
あきる野	1	1	4.35	0.09	4.26	スギ ヒノキ	1,326	325
計	3	3	20.01	6.33	13.68		4,340	1,317

③ 森林整備地域活動支援

森林施業計画書の認定を受けたため、市町村と締結した協定に基づき（5市町村・283ha）、以下の交付対象事業を実施した。

事業の内容	数量	経費(千円)
既契約地の見回り管理	252.35ha	775
歩道の改修	720m	1,226
林分調査	35.95ha	587
境界ペイント等	10.00ha	230
計		2,818

④ 利用間伐

分収林事業の収益確保と間伐材の有効活用を図るため、搬出条件の良好な既契約地において間伐木の搬出及び売り払いを実施した。

ア 実施箇所

a 所在地 青梅市梅郷（平成10年度契約二者分収育林地）

b 面積 1.33ha（スギ 0.80ha、ヒノキ 0.53ha）

イ 間伐・搬出方法

搬出コストを削減するため対象森林に対して伐採列幅4m、列間12mの列状間伐を実施した。間伐木は小型運搬車により林道まで運び、トラックで多摩木材センターに運搬し市売りを行った。

ウ 事業収支

(千円)

	収入	支出	差引
間伐・搬出委託費		2,142	
間伐・搬出補助金	1,708		
売り払い収入	1,385		
売り払い手数料		203	
計	3,093	2,345	748

財団収入 449 千円

育林地所有者収入 299 千円

(分収割合 財団：土地所有者＝60：40)



列状間伐の状況

⑤ 三者分収育林

施業計画に基づき保育・管理を実施した。

(単位は面積：ha、経費：千円)

契約 年度	森の名称	保 育			管 理			経費 計	伐採 年度
		内容	面積	経費	内容	面積	経費		
H 9	百 尋				巡視	10.07	0	0	H 32
8	奥多摩湖畔				巡視	13.58	0	0	29
7	古里	除伐	8.96	3,896				3,896	32
6	深沢				巡視	9.32	25	25	28
5	川のり				巡視	10.57	28	28	28
4	栃寄				巡視	10.32	28	28	28
3	神戸				巡視	7.02	19	19	28
2	人里				巡視	5.01	13	13	26
	計		8.96	3,896		65.89	113	4,009	

※ 百尋の森、奥多摩湖畔の森の巡視は森林整備地域活動支援事業により実施

(2) 都民との協働による森林づくり事業

① 二俣尾・武蔵野市民の森

平成13年度に山林所有者、武蔵野市、財団の3者間で協定書を締結した「二俣尾・武蔵野市民の森」において事業を実施した。

区 分	計画	実績	実 施 内 容
・ 運営協議会	2 回	2 回	・ 年間スケジュールの調整 市民の森の活用方法等の検討 森林の整備方針等の検討 市民の森事業の活動紹介の検討
・ 森林整備・管理	1 式	1 式	・ 下刈、間伐、枝打、歩道改修、間伐材搬出 利用、森林巡視、その他
・ 森の市民講座	4 回	4 回	・ 講座：東京の森の話 活動：森から集めた 素材を利用したリース作り等を実施した。
・ 動植物生息・生態調査 (H14 から継続調査)	1 式	1 式	・ スギ・ヒノキ林で行う間伐等森林施業が動 植物に与える影響を調査した。



森林の整備状況(間伐)



森の市民講座
(武蔵野市役所で講座後にリース作り体験)

② 奥多摩・武蔵野の森

武蔵野市、奥多摩町、財団の三者による森林整備協定(平成17年3月締結)に基づき、奥多摩町内のシカ被害地の森林の復旧事業を行った。

項 目	実 施 内 容	
全 体 計 画	① 整備箇所 ② 面 積 ③ 植栽樹種 ④ 協定期間 ⑤ 整備内容 ⑥ 整備費用	奥多摩町氷川字逆川(通称:ウスバ地区) 3.3ha 郷土樹種等 10年間 防鹿柵整備、植栽、作業路整備、丸太柵工、見回 武蔵野市と奥多摩町が出資
17年度実績	① 森林整備	植栽、シカ柵・単木ネット設置、丸太筋工 ※東京都『シカ被害地造林対策事業』により実施 その他(案内板設置、造林小屋建設等)



整備前の森林の状況



シカ柵設置状況

③ 奥多摩・昭島市民の森

昭島市、森林所有者、財団による三者で締結した分収林契約に基づき、奥多摩町の裸山の整備を行った。

項 目	実 施 内 容	
全 体 計 画	① 整備箇所 ② 面 積 ③ 植栽樹種 ④ 契約期間 ⑤ 整備内容	奥多摩町氷川字大沢入 1. 44 ha 花粉の少ないスギ、郷土樹種（ヤマザクラなど） 50年間 植栽、下刈、除・間伐、枝打等
17年度実績	① 森林整備 ② イベント	植栽、シカ柵・単木ネット設置 ※東京都『シカ被害地造林対策事業』により実施 平成17年10月23日 市民による下刈



整備前の奥多摩・昭島市民の森



シカ柵・単木ネットの設置

④ 企業の森（航空電子グループの森）

企業の支援による森林整備事業として、日本航空電子工業株式会社、森林所有者、財団の三者で締結した分収林契約に基づき、奥多摩町の裸山の整備を行った。

項 目	実 施 内 容	
全 体 計 画	① 整備箇所 ② 面 積 ③ 植栽樹種 ④ 契約期間 ⑤ 整備内容	奥多摩町氷川字大沢入 1. 33 ha ヒノキ、郷土樹種（コブシなど） 50年間 植栽、下刈、除・間伐、枝打等
17年度実績	① 森林整備 ② イベント	補植、下刈 平成17年4月15日、11月9日 社員による植樹 平成17年6月9日、9月12日 社員による下刈



整備前の状況



社員による下刈

⑤ 奥多摩共生の森

平成15年度より、未済造林地の土地所有者である奥多摩町と35年間の使用契約を結び、森林を造成する「奥多摩共生の森整備事業」を実施している。

森林の整備に当たっては、財団の各種事業を活用し、不足する資金を都民から広く募金を集める。

項 目	実 施 内 容	
全体計画	① 整備箇所	奥多摩町氷川字大沢入（奥多摩町有地）
	② 面 積	11.3ha
	③ 植栽樹種	トチ、ケヤキ、モミジ、スギ外
	④ 整備期間	35年間（植栽は、15～17年度）
	⑤ 整備費用	全体計画 57,200千円（募金目標 21,000千円）
17年度実績	① 森林整備	下刈 看板1基
	② 記念植樹会 参加者	10月22日 昭島市勤労市民共済会、(社)ガールスカウト日本連盟 東京都支部、奥多摩町、東京都森林組合
	③ 募金実績	2,700千円



共生の森全景（整備前）



記念植樹会風景

(3) 都行造林管理事業

水源涵養、国土保全、公有財産の造成及び地域林業の振興を目的に、東京都から管理を受託した多摩地域の都行造林地について、下記のとおり各種作業を実施した。

(単位：ha)

事業名	作業種	計画	実績
多摩森林育成	間伐	47.17	47.17
	除伐	14.70	14.70
	雪起こし	1.00	1.00
	保育作業 計	62.87	62.87
都行造林管理	雪起こし	1.00	1.00
	管理作業 計	1.00	1.00



(間伐作業)



(間伐作業後)

(4) 花粉発生源対策事業

「花粉の少ない森づくり募金」管理事業

平成17年度募金実績（平成18年3月27日～31日）

募金方法	件 数	金 額
銀行振込	16 件	25,500 円
郵便振替	41 件	120,000 円
合 計	57 件	145,500 円

東京都

「花粉の少ない森づくり募金」にご協力ください

～東京都は「花粉の少ない森づくり運動」を進めています～

首都圏では4人に1人が花粉症患者と言われています。多摩地域の森林では、花粉を多く発生する樹齢30年以上のスギ林が増えています。花粉の量を減らすには、こうした森を「花粉の少ない森」に変えていく必要があります。

このため東京都は、広く都民や企業の皆様のご理解とご協力をいただき、「花粉の少ない森づくり運動」を始め、その一環として「花粉の少ない森づくり募金」を実施することになりました。



多摩の森を花粉の少ない森に変えていきます

募金の使われ方

スリーコイン・ワンツリー運動

皆さんから寄せられた募金は「花粉発生源のスギ伐採」と「花粉の少ないスギへの植替え」の費用にあてられます。例えば、1500円で、スギ1本を切り出し、花粉の少ないスギに植替えることができます。

募金方法 下記の銀行が郵便局または、募金箱へご入金ください。

銀行振込 みずほ銀行立川支店 普通預金口座番号 1112074
 名義人 (財)東京都農林水産振興財団 (花粉募金)
 (みずほ銀行都内各支店の窓口から入金する場合は、振込手数料が無料になります。)

郵便振替 口座番号 00110-4-501613
 加入者名 (財)東京都農林水産振興財団 [通信欄に「花粉募金」とご記入ください。]

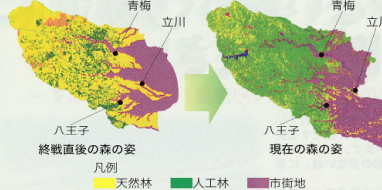
募金箱 設置場所: 東京都庁第一本庁舎1階、第二本庁舎1階、東京都産業労働局各施設、その他関連施設
 (順次拡大して参ります。詳しい設置場所については、下記ホームページをご覧ください。)

詳しくは <http://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.jp/norin/kafun/sugikafun.html>

問合せ先 東京都産業労働局農林水産部森林課 03-5320-4860
 (財)東京都農林水産振興財団 042-528-0505

R100

多摩の森林の約6割がスギ・ヒノキ人工林



青梅 立川 八王子
 終戦直後の森の姿 凡例 天然林 人工林 市街地
 現在の森の姿

国産材の需要低迷により、戦後大量に輸入されたスギ林の伐採、植替えが遅れています。

◆ 皆さんから寄せられた募金は、「花粉発生源のスギ伐採」と「花粉の少ないスギへの植替え」の費用にあてられます。

花粉発生源の解消

- ・樹齢30年以上のスギの計画的な伐採
- ・花粉の少ないスギ等の植樹



伐採 植樹

◆ 伐採した木材は、住宅建材や公共事業など皆様の身近なところで使われます。





民間木造住宅 ガードフェンス 公共施設 (内装・椅子・机)

今後、八都県市・関東各県と連携して「花粉の少ない森づくり運動」をすすめていきます

5 緑の募金・緑化推進事業

(1) 緑の募金事業

① 緑の募金活動

17年度の募金目標額は、16年度と同様の8,000万円とし募金活動に取り組んだ。募金実績は4,592万円、目標額に比し57%の達成率であり、16年度実績より約757万円減となった。

17年度は、引き続き日刊紙やポスター等による緑化運動啓発のための広報活動をはじめ、各種イベントに参加して、東京の森林の紹介、森林の大切さ、地球温暖化防止などをアピールするとともに緑の募金活動の推進を図った。

(単位：千円)

団 体 別	募 金 額
区市町村	15,311
学校（公立・私立）	3,941
東京都庁	2,522
各種団体	3,805
ボーイスカウト	2,285
ガールスカウト	3,017
事業指定募金	13,444
東京緑化推進委員会	1,604
合 計	45,929

(単位：千円)

種 別	募 金 額
家庭募金	9,480
街頭募金	5,934
職場募金	5,497
企業募金	18,035
学校募金	3,941
そ の 他	3,042
合 計	45,929



街頭募金キャンペーン

② 森林の整備・緑化推進

ア ボランティア団体等の実施する森林の整備事業への助成金交付

・ 15 団体 2, 671 千円

イ 自治会等の森林づくり事業への助成金交付

・ 3 箇所 3, 032 千円

地 域	事業名及び事業内容	事業費 (千円)
奥多摩町 氷川	「ドコモ奥多摩の森整備事業」 ドコモ社員による下刈り研修 1.0 ha 30 名	232
檜原村数馬	「数馬の湯の森整備事業」 ヤマツツジ、シダレザクラ等の植栽 1.0 ha 300 本	1, 500
あきる野市 養沢	「さかなたちの森(養沢川河畔林再生事業)」 コナラ、ヤマザクラ等の植栽 1.0 ha 465 本	1, 300

ウ 募金協力団体による緑化推進事業への助成金交付

・ 38 区市町村 50 件 12, 722 千円

・ 2 団体 6 件 4, 531 千円

エ 学校及び社会福祉施設緑化事業への助成金交付

・ 3 校、3 施設 1, 176 千円



文京区お茶の水橋下植栽



数馬の湯の森

③ 普及啓発

ア 募金PR事業

事業名	事業内容
緑化ポスター原画募集	応募状況 205校 1,366点 入賞 25点
緑化ポスター標語募集	応募状況 1,074点 入賞 22点
交通機関によるPR	都営ラッピングバス 4月1日～6月30日
緑の募金PR用花壇	三越銀座店 9月1日～12月25日
日刊紙によるPR	西多摩新聞 3月24日

イ 募金キャンペーン等

事業名	実施日	場所
総理緑の羽根着用キャンペーン	4月19日	総理官邸
みどりの感謝祭	4月29日	都立日比谷公園
緑の募金街頭キャンペーン	4月29日	数寄屋橋公園
木と暮らしのふれあい展	10月1日～2日	都立木場公園
アグリ・フェスタ・トウキョウ	11月2日～3日	明治神宮広場
緑化運動ポスター原画・標語展	3月22日～25日	東京ビッグサイト

ウ 森林づくり親子体験キャンプの開催

森林・林業に対する理解を深めるため、平成17年8月22日～23日に奥多摩町の「山のふるさと村」において親子参加による森林体験キャンプを開催した。



木と暮らしのふれあい展



緑化運動ポスター原画・標語展

(2) 苗木生産供給事業

東京都は「東京都における自然の保護と回復に関する条例」及び「緑の東京計画」に基づき、市街化農地を活用した緑化用苗木の生産供給を行っている。財団では都からの業務委託により、以下の項目について事業を実施した。

① 苗木の購入

新たに委託する緑化用苗木（稚苗）の購入を行った。

区 分	計 画	実 績	備 考
購入本数	150,000 本	購入本数合計 128,328 本 (内 特殊緑化用など 12,437 本)	公共事業・施設向けに苗木の購入を行った。このうち新規委託を実施したものは 115,891 本(11 月及び 3 月購入)である。購入本数の減少は、前年度の供給実績が減少したためである。
購入樹種	20 樹種	購入樹種 21 樹種	
都内産苗木 購入比率	85 %	新規委託に占める都内産苗木の購入比率 約 88 %	



都内産苗木生産状況（さつき）青梅市



苗木委託ほ場（つつじ）練馬区

② 栽培管理委託

苗木の栽培管理作業は、都内 12 JA に委託して実施した。

なお、管理委託に併せて掘取運搬作業の委託も行った場合、割安な掘取運搬経費となるため、5 JA に掘取運搬作業の委託を併せて行い、経費の縮減を図った。

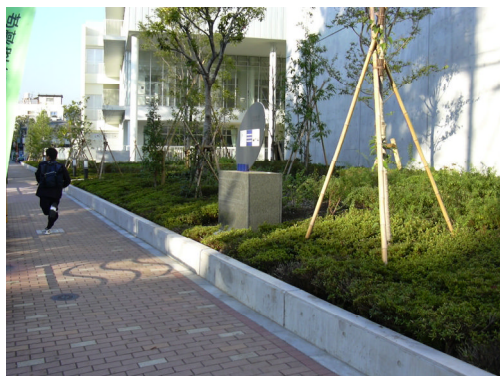
区 分	計 画	実 績	備 考
委託面積	通年委託分 18.9 h a 新規委託分 2.8 h a	通年委託分 18.9 h a 新規委託分 3.3 h a	11 月購入分
委託本数	通年委託分 663,000 本 新規委託分 150,000 本	通年委託分 664,498 本 新規委託分 83,196 本	11 月購入分
委託農協	12 JA	12 JA	5 JA で掘取運搬作業実施

③ 苗木の供給

東京都の指定した供給先へ苗木を供給するため、圃場からの掘取・運搬を行った。

また、屋上や壁面等の新たな緑化事業へも供給し、都内産緑化植物の P R を実施した。

区 分	計 画	実 績	備 考
供給本数	250,000 本	217,150 本	通常委託分 204,713 本 *1 その他(特殊緑化用など) 12,437 本 *1 財団運搬分 195,268 本(JA 掘取分含む) 自力運搬分 9,445 本



苗木供給事例（都立大江戸高校植栽）



苗木供給事例（壁面緑化：新河岸水再生センター）

6 環境保全型農業の推進事業

有機農業などの環境と調和した環境保全型農業を推進するため、優良堆肥の生産供給を行った。

(1) 堆肥生産供給事業

環境保全型農業の推進策の一環として、東京都有機農業堆肥センターにおいて優良堆肥を生産し、有機農法の実践農家への円滑な供給（有償）等を行った。都庁本庁舎の生ごみ処理については、16年度末で終了となった。また、生ごみ処理物や地域の剪定枝等の未利用資源を活用した堆肥化の実証モデルプラントとして、積極的に施設や技術を公開し、循環型社会の構築に貢献した。

事業内容	計画	実績
① 堆肥生産・供給目標量	750 t	662 t
有償供給 農家実戸数 170 戸	450 t	474 t
無償供給 農林総合研究センター 136 t	150 t	155 t
その他各種イベント等 19 t		
水分調整用（含在庫）	150 t	33 t
② 都庁本庁舎生ごみ処理量	110 t	0 t
（ ）内は処理物生産量	(24 t)	(0 t)
③ 優良堆肥生産技術の実証・展示 視察及び研修等の受入れ		講演会 3 回 16 団体 495 人

(2) 東村山キャンパス生ごみリサイクル事業

17 年度から新たに都施設の東村山キャンパス（老人ホーム・ナーシングホーム・医療センター）内で発生が生ごみを処理して堆肥センターにおいて堆肥化を行った。また、老人ホーム入居者に野菜づくりの指導や講習会を開催した。

事業内容	計画	実績
① 生ごみ処理量	120 t	153 t
（ ）内は処理物生産量	(24 t)	(30 t)
② 農業指導の開催	4 回/年	4 回/年

7 農林総合研究センター事業

東京都の委託を受け、東京の農林業の振興を図るため、調査・試験・研究を行うとともに、東京都の行政、普及部門との連携を図りながら、農林業者や都民に対する技術支援や情報提供を行なった。

(1) 試験研究事業

東京都との委託契約に基づき、以下の課題についての試験研究業務を実施した。

①試験研究の効率的な運営・管理〔研究課題 4テーマ〕

都民の意見を反映させた研究方針の策定、研究の進行管理と評価、連絡調整、総合的な研究企画・立案等を行なった。また、成果や各種情報を積極的に発信して、都民や生産者に役立つ試験研究を効率的かつ効果的に推進した。1室、5科、1分場合わせて53課題に取り組み、「成果情報」70報、「研究速報」45報、「東京都農林水産技術成果選集」7報、プレス発表5報などを公表したのをはじめ、3月10日に開催した農総研センター研究発表会では、12の研究成果を公表した。

②バイオ技術等を利用した東京特産品種の育成〔研究課題 6テーマ〕

植物バイオテクノロジー技術等を応用し、都民の需要に適應する野菜、花、果樹等の新品種育成や優良品種を選定し、市場競争力の高い商品の提供を図った。



香りシクラメン「おだや香」
(平成17年9月農水省品種登録申請)



同左「フリンジタイプD2」
(新しい香りシクラメンとして開発中)

③高品質・高付加価値農作物の育成〔研究課題 3テーマ〕

収益力の高い農業経営を実現するため、高付加価値生産システムを開発・導入し、高ミネラル・低硝酸・無農薬など、こだわり農畜産物の新商品開発に取り組んだ。

④園芸作物の生産性向上技術開発〔研究課題 6テーマ〕

果樹・花生産者の収益力を高めるため、省力化や低コスト化のための栽培技術開発に取り組んだ。



カキ新品種「東京紅」

(平成 17 年 2 月農水省種苗登録)

- ・受粉樹混植の効果を明らかにする
- ・17 年度、都内の農家 37 戸に穂木 22 戸に苗木を試験配布した

⑤畜産の生産性向上技術開発〔研究課題 7テーマ〕

畜産物の安定供給と安全性を確保し、畜産経営の発展を図るため、行政や普及部門、他の試験研究機関と連携しながら、生産現場が直面する問題解決のための試験研究と技術的支援を推進した。

⑥農産物の安全性確保技術の開発〔研究課題 3テーマ〕

農薬や汚染物質等の農産物や環境への残留実態を明らかにするとともに、残留回避技術や農薬等の迅速分析法を開発し、安全で高機能な農産物の生産を目指した。

⑦病虫害総合管理技術（IPM）の開発研究〔研究課題 4テーマ〕

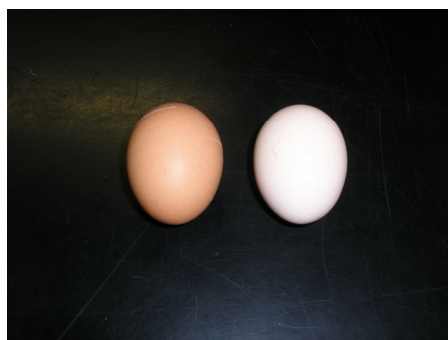
農作物に発生する病虫害の発生生態を明らかにし、様々な手段を組み合わせた総合的な病虫害管理技術に取り組み、農産物の安定生産や品質の向上を図った。

⑧有機資源管理・利用技術の開発〔研究課題 5テーマ〕

農業に応用できる有機資源のリサイクル技術及び有害物質を低減化させる微生物の利用技術に取り組み、環境に配慮した農業を推進し、安全・安心な農作物の開発に取り組んだ。



老人ホームから廃棄される食品残さを、鶏の飼料として開発した。



一般に食品残さ飼料は、卵の殻色を薄くしますが、殻色を薄くしない技術を開発した。

⑨土壌総合管理技術及び農作物の機能性成分解明〔研究課題 5テーマ〕

環境と調和する農業生産を目指すため、農業資源である畑土壌の悪化防止や改善

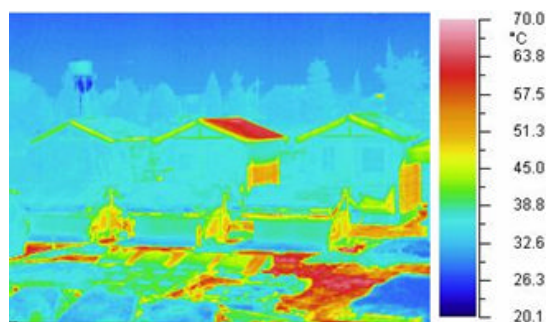
研究を行い、適切な土壌管理を指導・推進した。都特産作物の機能性成分を解明し、農産物の安定生産や品質向上、食の安全を図った。

⑩緑化植物を活用した都市環境改善技術の開発〔研究課題 2テーマ〕

環境緩和効果をもたらす街路樹等の緑化植物の特性及び環境適応性を解明することにより、景観形成やうるおいのある街づくりの実現を目指した。



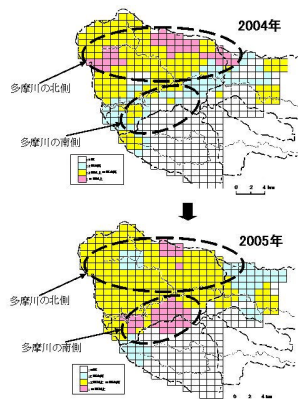
既存建物に対して、屋上・壁面を植物によって覆う対照区を設けて調査を行った。



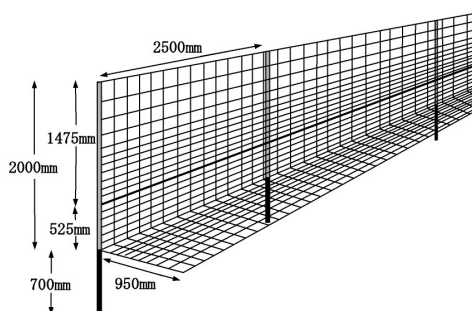
屋上・壁面の植物は、断熱効果をもち、省エネに有効であることが明らかになった。

⑪豊かな森づくり技術の開発〔研究課題 5テーマ〕

林業経営は低迷し、東京の森林の荒廃が進んでいる中で、林業・林産業の振興及び森林の保全・育成のための技術開発を通じて、地域の活性化と都民生活の安定に貢献した。



シカ生育密度の比較調査
2004年は多摩川左岸（上図）
2005年は多摩川右岸（下図）
に高密度地域が移る。



急斜面用シカ進入防止柵の新開発
森林のシカ被害を防ぐ鉄製の柵を開発した。

⑫江東地域における高度集約型園芸技術の開発〔研究課題 3テーマ〕

江東地域の農業振興を図るため、地域の基幹品目であるコマツナや鉢花などの高品質生産技術開発ならびに江戸伝統野菜の安定生産技術の向上に努めた。



伝統野菜「亀戸ダイコン」
栽培しにくいために今日は姿を
消した伝統野菜だが、味は風味
に優れて美味しい。朝漬に最適。



伝統野菜「大蔵ダイコン」
世田谷生まれの伝統野菜。
煮物に適する品種。

(2) 受託研究事業

研究のための資金を外部から積極的に獲得し、受託研究、企業・大学等との共同研究を推進した。また研究外部資金として、49,584 千円獲得した。

共同研究

契 約 先		契約件数
A	独立行政法人研究所、農水省	6
B	大 学	10
C	大学＋民間企業	1
D	公益法人、団体等	2
E	民間企業	5
合 計		24

<都民とのふれあい>



センター展

(園芸教室、農産物直売など：10月開催)



家畜ふれあいデー

(乳搾り体験、ひよこコーナーなど：4月・9月)

8 情報提供・普及啓発事業

(1) 森林総合利用事業

都民が森林及び林業についての理解を深めるためのイベントの実施と木材の利用促進事業を実施した。

平成17年度 森林総合利用実績

回	名 称	内 容	実施期間	実施場所	参加者	天候
1	今熊山森林浴登山	森林観察	5月21日(土)	今熊山	43	晴
2	第1回森林ふれあい教室	ネイチャーゲーム	6月18日(土)	日の出庁舎	8	曇
3	第2回森林ふれあい教室	昆虫観察	7月23日(土)	〃	57	曇
4	先生のための森林環境教育 セミナー	森林観察、林業体験	8月1(月)～2日 (火)	奥多摩町	18	晴
5	森林づくり親子体験キャンプ	間伐体験、木工教室	8月22日(月)～ 23日(火)	〃	15	晴
6	鳩ノ巣溪谷森林浴登山	森林観察	9月17日(土)	鳩ノ巣溪谷	51	晴
7	野生きのこ教室	観察・講義	10月1日(土)	日の出庁舎	60	晴
8	大塚山・御岳山森林浴登山	森林観察	10月22日(土)	大塚山・御岳 山	41	曇
9	第3回森林ふれあい教室	樹木博士、木工クラフト	11月5日(土)	日の出庁舎	47	晴
10	オーナーハイク	森林観察	11月12日(土)	鳩ノ巣溪谷	22	晴
11	日の出山森林浴登山	森林観察	11月26日(土)	日の出山	40	晴
12	植樹体験と数馬の湯	植樹体験	12月10日(土)	檜原村	19	晴
13	第4回森林ふれあい教室	高尾山ハイキング	2月18日(土)	高尾山	55	晴
14	南高尾森林浴登山	森林観察	3月18日(土)	草戸山	49	晴
15	第5回森林ふれあい教室	シイタケづくりと自然探索	3月25日(土)	日の出庁舎	40	晴
合 計					565	



森林浴登山（年5回実施）

5月21日 薫風の今熊山
9月17日 初秋の鳩ノ巣溪谷
10月22日 仲秋の大塚山・御岳山
11月26日 晩秋の日の出山
3月18日 早春の南高尾

晩秋の日の出山へ

見本による説明
（林業試験場）



野生キノコ教室（10月1日）



森林ふれあい教室（年5回実施）

6月18日 ネイチャーゲーム
7月23日 昆虫観察
11月 5日 樹木博士・木工クラフト
2月18日 高尾山ハイキング
3月25日 シイタケ作りと自然探索

昆虫観察会

都内小学校の先生を集めて1泊2日の森林・林業・山村の暮らし体験の研修を実施した。

森林観察、林業体験



先生のための森林環境教育セミナー
（8月1～2日）

(2) LCA調査事業

LCA(ライフサイクルアセスメント)調査は、製品の原料の採取から組立、廃棄までを含めた環境負荷量を調査及び評価するもので、平成15年度から東京産木材による木造住宅と他の工法による住宅の調査を行ってきた。調査にあたっては、東京農工大学の服部教授を座長とする委員会を開催し、森林組合、製材所、素材生産業者、工務店等への聞き取り調査を中心にデーターを収集した。

17年度は、引き続き東京産木材による住宅と一般的な住宅の建設に伴う環境負荷量の比較を行い、調査結果のとりまとめを行った。

- ① 調査実行委員会の開催(2回)
- ② 調査結果のとりまとめ



調査実行委員会の開催

(3) 総合情報提供事業

東京農業WEBサイト、東京森と木WEBサイト、財団ホームページを連携して、都民に対して農林水産業、特産品、食の安全安心等の情報を総合的に提供した。

① 東京農業WEBサイト運営事業

都民に対する東京農業や農地の働き、農畜産物・特産品、食の安全・安心などの情報発信のために、東京都、農業団体等が構築したWEBサイトの管理・運営を実施した。

② 東京の森と木・総合サイト運営事業

都民への森林・林業の普及啓発、木製品・特産品等の情報発信のため、東京都、多摩地域の自治体や森林・林業に関する団体が構築したWEBサイトの管理・運営を受託した。

③ ホームページ制作事業

森林・林業についての普及啓発の一環として、東京都森林組合のホームページ制作を受託し、ホームページの企画・制作、管理を行った。



東京都森林組合

www.tokyo-shinrin.com

お知らせ

林業経営情報

森林・林業の情報

木材の利用

森林組合紹介

新着情報

2006.3.26 [4/10よりキャンプ場の予約受付を開始](#)

2006.1.4 [「加工所だよりVol.1」アップしました](#)

2006.1.4 [「新年のご挨拶」](#)

2005.10.19 [「秋のイベント情報」をアップしました](#)



組合ニュース 第10号 (2006.1発行)
[第9号](#) / [第8号](#) / [第7号](#) / [第6号](#) /
[第5号](#) / [第4号](#) / [第3号](#) / [第2号](#) /

森人-もりびと-紹介
山仕事に携わっている人たちのインタビューです

[vol.1](#) [下野長久さん\(日の出町\)](#)
[vol.2](#) [鈴木寛之助さん\(あきる野市\)](#)
[vol.3](#) [太久保武さん\(檜原村\)](#)

林業経営情報
組合員向け各種事業は[こちら](#)をご覧ください
[地域活動支援交付金](#) / [森林施業計画](#) /
[造林補助金](#) / [資金貸付](#) / [森林国営保険](#)
/ [森林施業](#) / [森林再生](#)

森林・林業の情報
森林と林業に関する情報や各種データを掲載しています
[多摩の森林・林業](#) / [材価の低迷](#) /
[シカ害の増加](#) / [造林未済地の増加](#)

木材の利用
森林組合で製作した木を使った製品と木材加工所を紹介しています
[多摩の木材を使った製品の紹介](#) /
[木材加工所](#) / [奥森ハウス株式会社](#)

森林組合紹介
森林組合の組織、経営資料、定款などを掲載しています
[組合長挨拶](#) / [森林組合の組織](#) / [事務所案内](#) / [キャンプ場案内](#) / [森林組合の経営](#)

[ホーム](#) [お問合せ](#) [サイト](#) [リンク](#)

東京都森林組合ホームページ
<http://www.tokyo-shinrin.com/>

(4) 緑のシンポジウム事業

東京の緑問題に関する認識の共有化を目的とし、都内の市区町村が共同で開催した『東京の緑問題を考えるシンポジウム』の企画・運営業務を行った。

件 名 『東京の緑問題を考えるシンポジウム
～オール東京市区町村共同事業～』

開催日時 平成18年2月13日(月) 9:30～17:00

会 場 都市センターホテル

内 容 基調講演、4分科会による討議と総括討議

- ・ 基調講演「黒姫の森から東京の緑へのメッセージ」
- ・ 第1分科会「緑と地球環境-京都議定書から考える-」
- ・ 第2分科会「都市の緑を増やす」
- ・ 第3分科会「東京の森をつくる」
- ・ 第4分科会「緑とともに育つ」
- ・ 総括討議「連携の仕組みを考える」

参加人数 533人

受託内容 企画・事前準備・開催当日の運営・記録整理等



分科会の様子



基調講演(C. W. ニコル氏)



会場の様子



展示